

令和7年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立ひばりが丘中学校

全国学力学習状況調査（中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	語彙の理解	57.7	ほとんどの設問で都・全国の平均よりも高い正答率であった。特に「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、普段の話し合い活動が充実していることがわかる。また、記述式の正答率が高いのは、自分の考えを書く機会を多く設けている成果だと考える。	①語彙の理解と②目的に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がみられる。授業内では、①語句の意味調べに取り組む。②自分の考えを伝えるときに目的を意識させたうえで効果的な方法を考えさせる活動を取り入れる。
	資料の活用目的	84		
数学	文字による説明	38	今年度は4つの領域・3つの観点とともに全国平均より5ポイント以上上回った。10ポイント上回る場所もあった。習熟度別少人数授業で生徒の実態に合わせた授業進度で理解度を高められたと考えられる。	特に2つの問題で全国・都の平均を上回ってはいるが、正答率は低い。図形の証明は理解しているが、文字や式を用いての説明は深く理解しているとはいえない。結論を導くために、事象を文字式で表す思考力を高めなければならない。また、関数の基礎知識が定着していないといえるので、反復練習が必要である。
	一次関数の変化の割合と増加量の関係	41.1		